

令和7年度全国学力・学習状況調査

秋田県 調査結果の概要

～調査結果から見られた成果と 課題改善に向けた取組のポイント～

秋田県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の教科調査及び質問調査の結果を基に成果と課題を分析し、課題改善に向けた取組のポイントをまとめた「秋田県 調査結果の概要」を作成いたしました。

学校における検証改善サイクルを機能させた授業改善の取組の更なる充実に向けて、本概要を活用してください。



調査結果の概要①

国語

- ・ 小学校第6学年 国語
- ・ 中学校第3学年 国語

調査結果の概要②

算数・数学

- ・ 小学校第6学年 算数
- ・ 中学校第3学年 数学

調査結果の概要③

理科

- ・ 小学校第6学年 理科
- ・ 中学校第3学年 理科

調査結果の概要④

質問調査

- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ ICTを活用した学習状況 等

小学校第6学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
		(1)	(2)	(3)	A	B	C			
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	64.7	78.5	58.8
秋田県	71	83.4 (+6.5)	69.1 (+6.0)	85.0 (+3.8)	69.2 (+2.9)	73.2 (+3.7)	61.7 (+4.2)	67.8 (+3.1)	84.3 (+5.8)	66.0 (+7.2)
自校										

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

概要

- 平均正答率は、4ポイント以上全国平均を上回っています。
- 「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて、2ポイント以上全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、7ポイント以上全国平均を上回っています。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られます。

小学校第6学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1三(1)]

- (1) 「インタビューの様子の一部」の小森さんが――部Aのように発言した目的として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 自分が知りたいことをより具体的に知るため。
 - 質問する理由を相手に正しく伝えるため。
 - 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
 - 相手が伝えたいことの中心を明確にするため。

※「インタビューの様子の一部」は略。実際の調査問題を参照してください。

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

※【話し合いの様子】及び【話し合いの記録】は略。実際の調査問題を参照してください。

1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っていました。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

(正答)

1 と解答しているもの

○ 成果

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題

自校		秋田県	77.9 (+6.1)	全国	71.8
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例
 [2四イ]

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

(正答) 「暑(い)」と解答しているもの					
○ 成 果					
学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	78.9 (+6.8)	全国	72.1

山田さんの学級では、伝統工芸品についてすごいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてすごいせんする文章を、次の【ちらし】に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【ちらし】は略。実際の調査問題を参照してください。

四 山田さんは、【ちらし】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた――部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の――部ア、イを漢字でいいねいに書きましょう。

◇設問ごとの顕著な例
 [3三(2)]

(正答の条件)
 次の条件を満たして解答している。
 ① 言葉の変化について納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。
 ② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、以下のように言葉や文を取り上げて書いている。
 a 【資料2】、【資料3】のいずれかから言葉や文を取り上げて理由を書いている。
 b 【資料4】から言葉や文を取り上げて理由を書いている。
 c 【資料2】、【資料3】、【資料4】のうち複数の資料から言葉や文を取り上げて理由を書いている。

○ 成 果					
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	66.2 (+9.9)	全国	56.3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

※【資料1】は略。実際の調査問題を参照してください。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

※【話し合いの様子】は略。実際の調査問題を参照してください。

(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。
 〈条件〉
 ○ 言葉の変化になっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

◇設問ごとの顕著な例 [1ー]

▲ 課 題					
目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題					
目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理して伝え合う内容を検討することに課題が見られます。					
自校		秋田県	55.3 (+2.0)	全国	53.3

☆改善に向けた取組のポイント

伝え合う内容を検討するためには、知りたいことについて、自分の予想や疑問などを、聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要です。また、知りたいことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識できるように工夫することも大切です。

※【話し合いの様子】及び【話し合いの記録】は略。実際の調査問題を参照してください。

1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

解答類型		秋田県	全国
1	と解答しているもの	7.7	9.0
2	と解答しているもの	9.5	10.8
3	と解答しているもの	27.4	26.2
◎	4 と解答しているもの	55.3	53.3

◇設問ごとの顕著な例 [3三(1)]

▲ 課 題					
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題					
文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりして、必要な情報を見付けることに課題が見られます。					
自校		秋田県	41.3 (+0.5)	全国	40.8

☆改善に向けた取組のポイント

文章と図表など、複数の資料を結び付けて読み、必要な情報を見付けるためには、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり複数の資料の関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが重要です。その際、考えと理由や事例の関係、原因と結果の関係を捉えるなど、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを明らかにすることが大切です。

※【資料1】は略。実際の調査問題を参照してください。

3 木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

※【話し合いの様子】は略。実際の調査問題を参照してください。

(1) 【話し合いの様子】の[A]に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【資料1】の部①
- 2 【資料1】の部②
- 3 【資料1】の部③
- 4 【資料1】の部④

解答類型		秋田県	全国
1	と解答しているもの	4.3	5.2
2	と解答しているもの	38.0	33.9
◎	3 と解答しているもの	41.3	40.8
	4 と解答しているもの	15.5	16.4

小学校第6学年 国語 質問調査の結果から

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(45)〕「国語の勉強は好きですか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	68.8 (+10.5)	全国	58.3
-----------------	----	--	-----	-----------------	----	------

〔児童質問(50)〕「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	87.2 (+5.4)	全国	81.8
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(41)〕「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	98.3 (+2.6)	全国	95.7
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

〔児童質問(49)〕「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいませんか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	79.5 (+4.0)	全国	75.5
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(42)〕「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、児童に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか」

●肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	94.0 (-0.9)	全国	94.9
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

児童質問(49)と学校質問(42)の結果から、教師と児童とでは、認識に違いがあることが分かります。児童一人一人の学習状況に応じた指導について、改善の余地があると考えられます。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

児童一人一人の学習状況に応じた指導を行うためには、全ての児童に身に付けさせたい資質・能力を具体化、焦点化した上で、児童一人一人の学習状況を把握するとともに、児童が自分の学習状況を自覚し、必要感をもって学習を改善していくことが重要です。評価場面や方法を工夫して、つまづきの原因を分析し、児童が学びを自己調整していくことができるように学習指導を行います。その際には、教師による一斉指導だけでなく、学習形態や学習過程を工夫するなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る必要があります。

中学校第3学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					
		(1)	(2)	(3)	A	B	C	選択式	短答式	記述式
全国	54.3	48.1	—	—	53.2	52.8	62.3	63.9	73.6	25.3
秋田県	57	51.4 (+3.3)	— —	— —	55.7 (+2.5)	55.1 (+2.3)	64.3 (+2.0)	66.2 (+2.3)	78.6 (+5.0)	26.7 (+1.4)
自校										

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

概要

○平均正答率は、3ポイント程度全国平均を上回っています。
 ○「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて、2ポイント以上全国平均を上回っています。
 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られます。

中学校第3学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [2二]

- 2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイディアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルを見てもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、〈スライド①〉から〈スライド⑤〉までを読んで、あとの問いに答えなさい。

※【村田さんのスピーチ】及び〈スライド①〉から〈スライド⑤〉は略。実際の調査問題を参照してください。

- 二 【村田さんのスピーチ】の——線部⑦「……あ、1年間で採取した種のうち、半分以上は残ってしまうのですよ。」は、村田さんがその場で考えて発した言葉です。村田さんがこのように発言した理由を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 聞き手の反応から、種をもらう参加者が何人くらいいるのか、疑問を感じていると判断したから。
- 聞き手の反応から、採取した種が残ってしまう理由を理解することができていないと判断したから。
- 聞き手の反応から、種をもらう参加者の目的を理解することができていないと判断したから。
- 聞き手の反応から、採取した種がどのくらい残るのか、疑問を感じていると判断したから。

(正答)
4 と解答しているもの

○ 成果

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題

自校		秋田県	81.1 (+3.2)	全国	77.9
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例 [3二]

3 次
の
文
章
は
、
島
崎
藤
村
が
書
い
た
「
二
人
の
兄
弟
」
と
い
う
物
語
で
す
。こ
の
物
語
は
、「
一
榎
木
の
実
」
、「
二
釣
の
話
」
で
構
成
さ
れ
て
い
ま
す
。こ
れ
を
読
ん
で
、あ
と
の
問
い
に
答
え
な
さ
い
。

※文章は略。実際の調査問題を参照してください。

二 — 線部 ① 「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれているか。 「一 榎木の实」と 「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 兄の欄に「気が長い」のように解答している。 ② 弟の欄に「気が短い」のように解答している。					
○ 成 果					
文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	92.8 (+2.9)	全国	89.9

◇設問ごとの顕著な例 [4一]

4 三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんに、おれの手紙を書いて
います。次は、三上さんが推敲している途中の【手紙の下書きの一部】です。これを読んで、あ
との問いに答えなさい。

※【手紙の下書きの一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

一 三上さんは、【手紙の下書きの一部】に、一箇所、漢字の誤りがあることに気付きました。
三上さんの修正の仕方を参考にして、誤って書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横
に、正しい漢字を書きなさい。

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 誤って書かれている漢字として、「問」を線で消している。 ② 正しい漢字として、「問」の右横に「門」と書いている。					
○ 成 果					
読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	64.4 (+7.1)	全国	57.3

◇設問ごとの顕著な例 [1四]

- 1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。（後略）
- 四 今年の美術展では、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【**ちらし**】（更新版②）の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。（後略）
- ※【**ちらし**】（更新版②）、**条件1**、**条件2**、【**工夫**】、【**感想の一部**】は略。実際の調査問題を参照してください。

▲ 課 題					
自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題					
自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめ、伝えたい事柄とその根拠を適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くことに課題が見られます。					
自校		秋田県	30.5 (-0.5)	全国	31.0

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 【**工夫**】のいずれか一方と、【**感想の一部**】のいずれか一つを選んで、選んだ記号を塗り潰している。
② 選んだ【**工夫**】に結び付く【**感想の一部**】を選んでいる。
③ 選んだ【**工夫**】の内容と【**感想の一部**】の内容を適切に取り上げて書いている。
④ 接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【**工夫**】と【**感想の一部**】とを適切に関係付けて書いている。

解答類型	秋田県	全国
◎ 条件①、②、③、④を満たして解答しているもの	30.5	31.0
条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	8.9	8.2
条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.2	0.2
上記以外の解答	59.4	59.0

☆改善に向けた取組のポイント

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめた上で、接続する語句や指示する語句を用いるなどして伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くように指導することが大切です。例えば、提案や報告など、相手や目的を明確にして自分の考えを簡潔にまとめて書く学習が考えられます。その際、書く内容に沿って集めてきた材料を、意見と根拠の関係などに着目して、整理することが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例 [4二]

▲ 課 題					
読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題					
伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、身に付けた知識及び技能を生かして語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることに課題があります。					
自校		秋田県	31.9 (+1.8)	全国	30.1

☆改善に向けた取組のポイント

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることができるように指導することが大切です。例えば、案内状や手紙、依頼のメール文など、これまでに書いた文章を時間をおいて読み返し、観点を明確にして文章を整えたり、具体的な相手を想定して読み返し、伝えようとするものが伝わるかどうかを確かめたりする学習が考えられます。

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 削除したり書き直したりしたい部分を一つ決めて、以下のような適切な修正をしている。
a 長い文を修正している。
b 語句を修正している。
c 語順を修正している。
② 修正した方がよいと考えた理由を、誤りなく具体的に書いている。

4

三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の犬野さんにお礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している途中の【**手紙の下書きの一部**】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

※【**手紙の下書きの一部**】は略。実際の調査問題を参照してください。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【**手紙の下書きの一部**】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考にして、次の**条件1**から**条件3**にしたがって書きなさい。

※**条件1**から**条件3**は略。実際の調査問題を参照してください。

解答類型	秋田県	全国
◎ 条件① a、②を満たして解答しているもの	12.5	9.1
◎ 条件① b、②を満たして解答しているもの	19.3	20.9
◎ 条件① c、②を満たして解答しているもの	0.1	0.1
条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	12.1	12.1
条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	20.2	16.4
上記以外の解答	22.5	22.4
無解答	13.3	19.1

中学校第3学年 国語 質問調査の結果から

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(45)〕「国語の勉強は好きですか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	71.4 (+13.5)	全国	57.9
-----------------	----	--	-----	-----------------	----	------

〔生徒質問(50)〕「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	81.2 (+7.2)	全国	74.0
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(41)〕「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	98.1 (+1.3)	全国	96.8
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

〔生徒質問(31)〕「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	63.4 (+0.4)	全国	63.0
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

「当てはまる」と回答した生徒の割合は20.3%で、生徒が、発表の機会において自分の考えがうまく伝わっていることを自覚できるよう工夫する必要があります。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、生徒自身が、発表の場面で「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができている」ことを、自覚できるようにする必要があります。例えば、問いかけに対して聞き手がどのように反応するかを予想して、聞き手の反応に応じて話すための準備をする学習活動を行う際、聞き手の反応に応じて、補足の情報を加えて詳しく説明したり、話の一部を省略したりするなど、複数の伝え方を想定したメモを作成することなどが考えられます。その上で、聞き手の反応を見ながら話して、自分が準備した工夫が有効であったかを確認することが重要です。

小学校第6学年 算数

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域					問題形式		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	選択式	短答式	記述式
全国	58.0	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	67.2	64.0	34.9
秋田県	60	63.3 (+1.0)	58.0 (+1.8)	54.9 (+0.1)	56.0 (-1.5)	65.3 (+2.7)	68.2 (+1.0)	65.4 (+1.4)	37.9 (+3.0)
自校									

概要

- 「Dデータの活用」の領域において、3ポイント程度全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、3ポイント程度全国平均を上回っています。
- 無回答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「C変化と関係」の領域において、1ポイント以上全国平均を下回っています。

小学校第6学年 算数 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 【1(3)】【Dデータの活用】

1 あいりさんたちは、2026年度からブロッコリーが指定野菜に追加されることをニュースで知り、指定野菜について調べることになりました。

(3) あいりさんたちは、指定野菜のだいこんについても調べています。(中略)

だいこんの出荷量について、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が多い都道府県を、右の表の①から⑤までの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

だいこんの出荷量(2022年)				(t)
種別	春だいこん (4月～6月に出荷)	夏だいこん (7月～9月に出荷)	秋冬だいこん (10月～3月に出荷)	合計
都道府県				
①	51300	348	82900	134548
②	9240	91400	20800	121440
③	18900	50300	28700	97900
④	12600	477	70100	83177
その他	84460	44875	420200	549535
合計	176500	187400	622700	986600

※ ①、②、③、④は都道府県名です。

(作物統計調査による。)

(正答)
い、う と解答しているもの

○ 成果

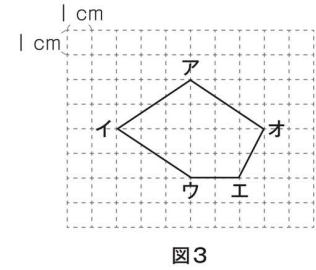
簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題

自校		秋田県	78.7 (+7.1)	全国	71.6
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例 [2(4)] 【B図形】

2 わかなさんたちは、いろいろな図形について学習してきたことをふり返っています。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。



わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



わたしは、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

(正答の条件)
番号を1と選び、次のA①、A②の全てを書いている、又は、番号を2と選び、次のB①、B②の全てを書いている。
A 直線イオをひき、五角形アイウエオと三角形アイオと台形イウエオに分割して、それぞれの図形の面積の求め方を書いている。
A① 三角形アイオの面積を求める式や言葉
A② 台形イウエオの面積を求める式や言葉
B 直線ウオをひき、五角形アイウエオをひし形アイウオと三角形ウエオに分割して、それぞれの図形の面積の求め方を書いている。
B① ひし形アイウオの面積を求める式や言葉
B② 三角形ウエオの面積を求める式や言葉

○ 成果					
基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題					
自校		秋田県	40.9 (+3.9)	全国	37.0

◇設問ごとの顕著な例 [3(1)] 【A数と計算】

3 ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、0.4 + 0.3 についてまとめています。



0.4は0.1の4個分、0.3は0.1の3個分です。
0.1を①として下の図のように表します。

0.4

① ① ① ①

0.1が4個

0.3

① ① ①

0.1が3個

0.4 + 0.3の計算は、0.1をもとにすると、4 + 3を使って考えることができます。

0.4 + 0.3は、0.1をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、0.4 + 0.05について同じようにまとめます。

0.4は ⑦ の40個分、0.05は ⑦ の5個分です。
0.4 + 0.05の計算は、 ⑦ をもとにすると、40 + 5を使って考えることができます。

上の⑦にはすべて同じ数が入ります。⑦に入る数を書きましょう。

(正答)
0. 0 1 と解答しているもの

○ 成果					
小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を記述する問題					
自校		秋田県	76.7 (+2.6)	全国	74.1

◇設問ごとの顕著な例
 [3(2)]
 【A数と計算】

③ ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。（中略）

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、**もとにする数**を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

- (正答の条件)
 次の①、②、③の全てを書いている。
 ① $3/4$ と $2/3$ に共通する単位分数が、 $1/12$ であることを表す数や言葉（分母が12の倍数の単位分数を含む）
 ② $3/4$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
 ③ $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

▲ 課 題

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題

共通する単位分数は記述できていますが、加数と被加数が、それぞれ共通する単位分数の幾つ分かを記述できていない誤答が見られました。

自校		秋田県	24.7 (+1.7)	全国	23.0
----	--	-----	----------------	----	------

☆改善に向けた取組のポイント

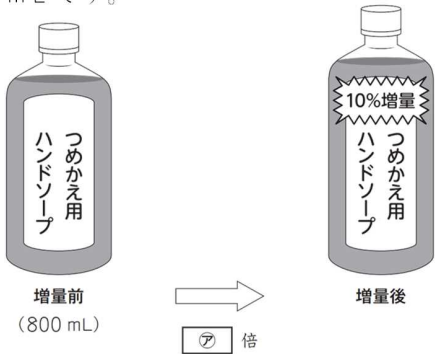
分数の加法について、既習の整数の加法に帰着して計算できるようにすることが重要です。異分母の分数の加法については、例えば数直線や面積図を用いるなどして共通する単位を見だし、分母を揃えることで、単位分数の幾つ分とみて考えられるようにすることが大切です。

◇設問ごとの顕著な例
 [4(4)]
 【C変化と関係】

④ 保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。（後略）

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の㊦にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

	解答類型	秋田県	全国
1	0.1		
2	1.1		
3	10		
4	110		
	1 と解答しているもの	40.3	37.5
	㊦ 2 と解答しているもの	37.1	40.9
	3 と解答しているもの	17.8	14.7
	4 と解答しているもの	2.1	2.2
	無解答	2.4	4.1

▲ 課 題

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題

「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉え、0.1倍とした誤答が見られました。

自校		秋田県	37.1 (-3.8)	全国	40.9
----	--	-----	----------------	----	------

☆改善に向けた取組のポイント

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要です。基の量と10%増量した量を図に表すことで、「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにし、数量の関係を捉えられるようにすることが大切です。

小学校第6学年 算数 質問調査の結果から

◇算数の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(56)〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	88.2 (+4.9)	全国	83.3
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

算数で学習した内容を、日常生活に活用しようとする姿勢が身に付いていることが見取れます。

〔児童質問(58)〕「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	72.9 (+7.4)	全国	65.5
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

自分の考えを数学的に表現したり、根拠を明らかにして説明し伝え合ったりする活動が行われていることが見取れます。

〔学校質問(45)〕「調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	94.1 (+2.8)	全国	91.3
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、問題を解決する過程を重視した授業づくりが行われていることが見取れます。

〔児童質問(53)〕「算数の勉強は好きですか」

●肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	63.1 (+5.2)	全国	57.9
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

令和3年度から5年連続で低下傾向にあり、これまでの調査で最も低い数値となっています。

〔学校質問(48)〕「調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた児童に対する対応を行っていましたか」

●肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	98.2 (+1.2)	全国	97.0
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

肯定的な回答の割合は高くなっていますが、そのうち「よく行った」と回答した割合は45.2%（全国比-3.9）で全国平均を下回っています。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・児童が算数のよさや学ぶことの楽しさを味わいながら、一人一人が「分かった」「できた」を実感できるように、問題場面の設定や問い方を工夫することで、必要感や目的意識をもって問題解決に取り組めるようにするとともに、一人一人の考えを見取り、児童の困っていることなどを生かして、ねらいの達成につながる学び合いを展開することが大切です。

中学校第3学年 数学

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	選択式	短答式	記述式
全国	48.3	43.5	46.5	48.2	58.6	54.0	52.0	39.6
秋田県	49	46.2 (+2.7)	45.9 (-0.6)	48.9 (+0.7)	60.0 (+1.4)	57.8 (+3.8)	51.4 (-0.6)	41.5 (+1.9)
自校								

概要

- 「A数と式」の領域において、3ポイント程度全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、2ポイント程度全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「B図形」の領域において、1ポイント程度全国平均を下回っています。
- 全国平均を下回っている6問のうち、4問が知識・技能の観点となっています。

中学校第3学年 数学 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1]【A数と式】

- [1] 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

(正答)
2、3、5、7 と解答しているもの

○ 成 果

素数の意味の理解を確かめる問題

自校		秋田県	41.4 (+9.6)	全国	31.8
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例
 【6(3)】
 【A数と式】

6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

3、6 のとき $3 + 6 = 9$
 12、15 のとき $12 + 15 = 27$
 30、33 のとき $30 + 33 = 63$

(3) 結菜さんは、連続する2つの3の倍数を、連続する3つの3の倍数に変えた場合、その和がどんな数になるかを調べました。

3、6、9 のとき $3 + 6 + 9 = 18 = 9 \times 2$
 6、9、12 のとき $6 + 9 + 12 = 27 = 9 \times 3$
 9、12、15 のとき $9 + 12 + 15 = 36 = 9 \times 4$

結菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想

連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

上の**予想**がいつでも成り立つことを説明します。
 下の**説明2**を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する3つの3の倍数は、 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ と表される。
 それらの和は、

$$3n + (3n + 3) + (3n + 6)$$

$$=$$

(正答の条件)

< $9(n+1)$ と計算している場合 >

次の(a)、(b)について記述している。

(a) $n+1$ は整数だから、

(b) $9(n+1)$ は9の倍数である。

< $9n+9$ と計算している場合 >

次の(c)、(d)について記述している。

(c) $9n$ 、9 が9の倍数で、9の倍数の和は9の倍数だから、

(d) $9n+9$ は9の倍数である。

○ 成果

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題

自校		秋田県	48.0 (+2.8)	全国	45.2
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例
 【7(2)】
 【Dデータの活用】

7 優斗さんと芽依さんは、地域のイベントで「じゃんけんカードゲーム」を行うことを計画しました。（後略）

(2) (前略) 二人は、Aの手元のカードの枚数が4枚、Bの手元のカードの枚数が2枚の場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。

そこで、Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。



このとき、AとBのどちらが勝ちやすいですか。下の**ア**から**ウ**までのの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を求め、その値を用いて説明しなさい。

ア Aの方が勝ちやすい。

イ Bの方が勝ちやすい。

ウ AとBの勝ちやすさは同じである。

(正答の条件)

ウを選択し、事象の起こりやすさを判断するために、次の(a)、(b)について記述しているもの。

(a) Aの勝つ確率が $3/8$ であること。

(b) Bの勝つ確率が $3/8$ であること。

○ 成果

不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題

自校		秋田県	60.1 (+4.2)	全国	55.9
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例 [4] 【C関数】

[4] 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

▲ 課 題					
一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に x の増加量に対する y の増加量を求める問題					
x の増加量を x の値と捉え、 $y = 6x + 5$ に $x = 2$ を代入し、 y の値を求める誤答が見られました。					
自校		秋田県	32.1 (-2.6)	全国	34.7

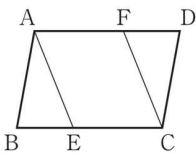
解答類型	秋田県	全国
◎ 1 2 と解答しているもの	32.1	34.7
6 と解答しているもの	4.8	6.3
1 7 解答しているもの	31.9	29.3
2 と解答しているもの	3.6	3.2
3 と解答しているもの	4.0	3.6
5 と解答しているもの	1.0	0.9
上記以外の解答	15.3	14.0
無解答	7.2	8.0

☆改善に向けた取組のポイント

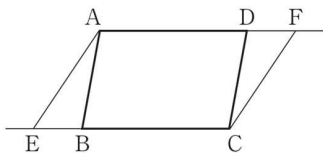
x の増加量から y の増加量を求めることと、 x の値から y の値を求めることの過程と結果を比べて、それらの違いを捉えられるようにする活動を取り入れることが重要です。また、伴って変わる数量の関係を日常生活や社会の事象から見いだしたり、表やグラフで表したりしながら、「増加量」や「変化の割合」の意味を理解できるようにすることが大切です。

◇設問ごとの顕著な例 [9(2)] 【B図形】

[9] 右の図1のように、平行四辺形 $ABCD$ の 図1
 辺 BC 、 DA 上に、 $BE = DF$ となる点 E 、
 F をそれぞれとります。
 このとき、四角形 $AECF$ は平行四辺形に
 なります。(後略)



(2) 右の図2のように、平行四 図2
 辺形 $ABCD$ の辺 CB 、 AD を延
 長した直線上に、 $BE = DF$ と
 なる点 E 、 F をそれぞれとつ
 ても、四角形 $AECF$ は平行四辺
 形になります。このことは、前
 ページの証明1の一部を書き直
 すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、次の
 アからオまでの中から1つ選び、正しく書き直しなさい。



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $DF = BE$ ……③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$ ……④
オ	④より、 $AF = EC$ ……⑤
	①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形 $AECF$ は平行四辺形である。

解答類型	秋田県	全国
◎ <エを選択> ②、③より、 $AD + DF = BC + BE$ …④ と記述しているもの ($AF = EC$ を導ける ものを含む)	34.5	36.3
<エを選択> 上記以外の解答	14.1	12.5
イを選択し、記述しているもの	10.9	8.4
ア、イ、ウのいずれかを選択し、無解答で あるもの	8.3	10.7

▲ 課 題					
統合的・発展的に考え、条件を変えた場合につ いて、証明を評価・改善する問題					
結論から導かれる性質を根拠として用いる誤答 が見られました。					
自校		秋田県	34.5 (-1.8)	全国	36.3

☆改善に向けた取組のポイント

条件を変えても変わらない関係や、条件を変え
 ると変わる関係を見だし、統合的・発展的に
 考察できるようにすることが大切です。そのた
 めには、証明したことを基に条件を変えて考
 察する場面を設定し、元の証明を評価・改善
 して部分的に書き直すことで、新たな事象を
 証明する活動を取り入れることが考えられま
 す。

中学校第3学年 数学 質問調査の結果から

◇数学の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(56)〕「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	65.3 (+7.4)	全国	57.9
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

数学のよさを実感しながら、学んだことを生活や今後の学習に生かしていることが見取れます。

〔生徒質問(58)〕「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	72.1 (+13.5)	全国	58.6
-----------------	----	--	-----	-----------------	----	------

数学の授業では、自分の考えを数学的に表現する活動が取り入れられていることが見取れます。

〔学校質問(45)〕「調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			本県	93.3 (+3.7)	全国	89.6
-----------------	--	--	----	----------------	----	------

生活と関連した問題場面を設定するなど、具体的な場面と数学を結び付ける授業づくりを進めていることが見取れます。

〔生徒質問(54)〕「数学の授業の内容はよく分かりますか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	69.9 (-0.4)	全国	70.3
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(48)〕「調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた生徒に対する対応を行っていましたか」

●肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	88.5 (-7.3)	全国	95.8
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

「数学の授業の内容はよく分かりますか」に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が減少傾向の中、令和7年度は全国平均を下回りました。その要因として、つまづいている生徒への対応が十分に行われていないことが見取れます。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・生徒が「分かった」を実感できるようにするために、一人一人の考えを見取り、困っていることなどを生かして、ねらいの達成につながる学び合いを展開するとともに、「できた」を実感できるようにするために、学んだことを適用したり、発展的に考えたりする場面を設定することが大切です。

小学校第6学年 理科

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		エネルギー	粒子	生命	地球	選択式	短答式	記述式
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7	54.7	69.7	45.2
秋田県	61	46.9 (+0.2)	54.9 (+3.5)	58.9 (+6.9)	72.0 (+5.3)	56.7 (+2.0)	73.9 (+4.2)	60.7 (+15.5)
自校								

概要

- 全ての領域において、平均正答率は全国平均を上回っており、「生命」及び「地球」を柱とする領域は5ポイント以上上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、15ポイント以上全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。

小学校第6学年 理科 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1(2)]

- ① としやさんとあかりさんは、学校の花だんに入れた、赤玉土という土を見て、気づいたことを話しています。(中略)

あかりさんたちは、次のような【問題】を調べることにしました。

【問題】

水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがあろうか。

あかりさんたちは【問題】を、大きいつぶと小さいつぶの赤玉土で確かめる【方法】について考えました。(後略)

あかりさんたちは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

【結果】 <赤玉土に水がしみこむ時間>		
	コップA (大きいつぶ)	コップB (小さいつぶ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。



あかり

【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがあろう」といえるね。

- (2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って書きましょう。

(正答の条件)

次の①、②を全て記述して、妥当な考えを表現している。

- ① コップA、コップBでの水のしみ込む時間を数値で記述しているもの
- ② それぞれのしみ込む時間を比較し、結論を導いた理由を記述しているもの

○ 成 果

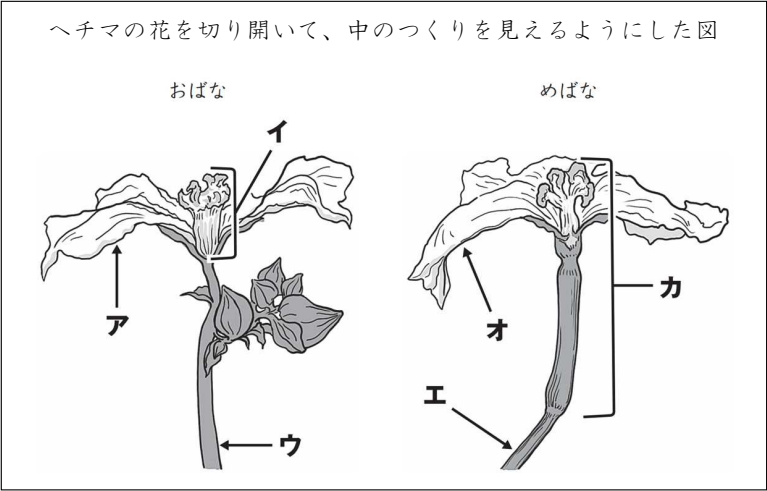
赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く問題

自校		秋田県	73.5 (+13.0)	全国	60.5
----	--	-----	-----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例 [3(1)]

3 たかひろさんとてるみさんは、ヘチマの花のつくりについて調べています。

(1) ヘチマのおしべとめしべを下の図の **ア** から **カ** の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。



(正答)
おしべ イ、めしべ カ、
「花粉がめしべの先につく」 受粉 と解答しているもの

○ 成果					
ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く問題					
自校		秋田県	77.9 (+7.2)	全国	70.7

◇設問ごとの顕著な例 [3(4)]

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を右のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、右の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



たかひろさんが行った実験

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・ 水あり
- ・ 空気あり（種子が空気にふれている）
- ・ 温度（室温）
- ・ 日光なし（箱をかぶせている）
- ・ 肥料なし

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。
その【問題】を1つ書きましょう。

(正答の条件)
以下の①、②の全てを記述している。
① 〈条件〉から、日光または肥料について、1つ選んで記述しているもの
② レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述しているもの

○ 成果					
レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く問題					
自校		秋田県	47.9 (+18.0)	全国	29.9

◇設問ごとの顕著な例
 [2(1)]

② てつやさんといおりさんは、フェンシングについて調べています。（後略）

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1
- 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2
- 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3
- 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4
- 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

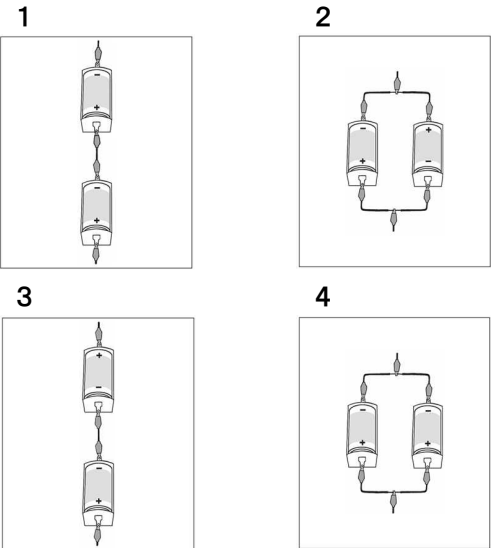
	解答類型	秋田県	全国
	アルミニウム1、鉄1、銅1 と解答しているもの	0.5	0.5
	アルミニウム1、鉄1、銅2 と解答しているもの	2.2	2.3
	アルミニウム2、鉄1、銅1 と解答しているもの	4.4	3.6
◎	アルミニウム2、鉄1、銅2 と解答しているもの	11.3	10.6
	鉄2 と解答しているもの	3.9	3.8
	アルミニウム、鉄、銅のいずれかに、3または4 と解答しているもの	77.3	77.9

▲ 課 題					
アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題					
全設問中、最も正答率が低い設問でした。身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を身に付けることに課題が見られます。					
自校		秋田県	11.3 (+0.7)	全国	10.6

☆改善に向けた取組のポイント
物質の性質について理解を深めるためには、学習した知識と身の回りで見られる事物・現象を関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりすることが大切です。例えば、第3学年の「A (5) 電気の通り道」ア(イ)と「A (4) 磁石の性質」ア(ア)の学習において、実験で調べる対象物は共通している物が多いため、物ごとに、電気を通す、電気を通さない、磁石に引き付けられる、磁石に引き付けられないという視点で整理し、まとめる学習活動が考えられます。

◇設問ごとの顕著な例
 [2(4)]

(4) かん電池2個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



	解答類型	秋田県	全国
◎	1 と解答しているもの	54.0	55.1
	2 と解答しているもの	28.5	25.6
	3 と解答しているもの	8.0	9.0
	4 と解答しているもの	9.2	9.4

▲ 課 題					
乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題					
正答率が全国と比べて低い設問でした。乾電池の直列つなぎに関する知識を身に付けることに課題が見られます。					
自校		秋田県	54.0 (-1.1)	全国	55.1

☆改善に向けた取組のポイント
学習を通して得た知識の理解を深めるためには、事物・現象について調べ、分かったことを言葉や図で表現したり、表現した内容が適切かどうかを見直したりすることが大切です。例えば、直列つなぎ、並列つなぎの場合を比較しながら、電流の大きさや向き、乾電池につないだ物の様子について、考えたことを言葉や図に表現したり、友達同士でつなぎ方の特徴を伝え合い、気付いたことを基に必要なに応じて修正したりする学習活動が考えられます。

小学校第6学年 理科 質問調査の結果から

◇理科の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(65)〕「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	70.3 (+7.1)	全国	63.2
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔児童質問(70)〕「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	83.1 (+7.1)	全国	76.0
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(50)〕「調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	98.8 (+3.1)	全国	95.7
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

〔児童質問(66)〕「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」

●肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	76.9 (+8.0)	全国	68.9
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

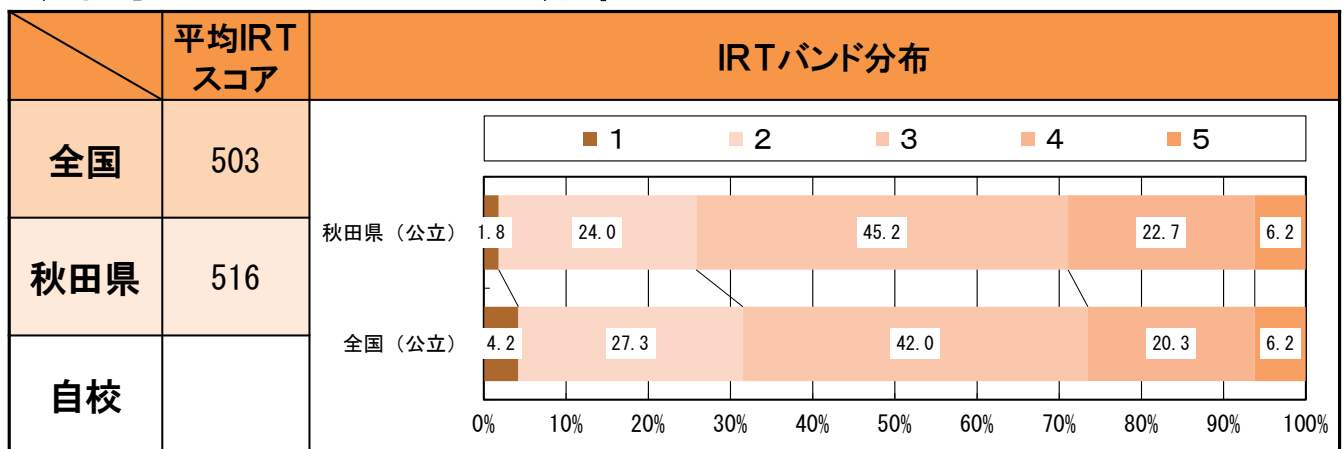
肯定的な回答をした児童の割合は全国を8.0ポイント上回っているものの、令和6年度調査の結果より9.7ポイント低くなっています。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・理科は、問題解決の過程を通じた学習活動を重視しています。問題解決の活動を充実させるためには、児童が自然の事物・現象に対して疑問を持ったり、問題を見いだしたりすることが大切です。そのためには、知的好奇心を喚起するような事象を提示することや、自然の事物・現象に対するイメージや素朴な概念を取り上げることで、児童の「なぜ?」、「たしかめたい!」といった気持ちを高めることができます。

中学校第3学年 理科

◇平均IRTスコア・IRTバンド分布



概要

○平均IRTスコアは、13ポイント全国平均を上回っています。
○IRTバンド分布について、全国と比べてIRTバンド1、2の生徒の割合が低く、IRTバンド3、4の生徒の割合が高くなっています。

◆次のウェブサイト、「IRT」に関する資料があります。

https://www.mext.go.jp/content/20250711-mxt_chousa02-000043621-04.pdf



中学校第3学年 理科 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1(2)]

1 課題を設定する



Aさん

【Aさんの疑問】

理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？



Aさん

課題は、

(

)にしようと思います。

(2) 【Aさんの疑問】を解決するために、()に適切な課題を書きなさい。

○ 成果

「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という疑問を解決するための課題を記述する問題

自校		秋田県	62.0 (+15.8)	全国	46.2
----	--	-----	-----------------	----	------

(正答の条件)

次の(a)と(b)を満たしているもの

(a) 【Aさんの疑問】を解決しようとする内容になっているか。

(b) 水道水と精製水の両方の性質に着目している。

◇設問ごとの顕著な例 [1(6)]

1 探究を振り返る

水道水、精製水について探究したことを発表しています。

(6) 右の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

水道水について

- 河川の水などを顕微鏡で観察すると、いろいろな生物がいるので、安全に飲むための工夫をしている。
- 河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について

- 理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。
- 精製水とミネラルウォーターとの違いは何かを現在調べている。

探究を通じて、さらに疑問に感じたことに着目して振り返ります。

…水について、…ということが分かり、…についてさらに疑問を感じたので…

Bさん

探究を通じて、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

最初は…と思っていましたが、…という考えに変わりました。

Cさん

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感じたことに着目して振り返ります。

…ので、身近な生活とのつながりがあることが分かりました。

Dさん

- (正答の条件)
- 次の (a) と (b) ～ (e) のいずれかを満たしているもの
- (a) 水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。
 - (b) Bさんの視点を参考に、疑問に感じたことや、調べてみたいことを記述している。
 - (c) Cさんの視点を参考に、はじめの考えから考えが変化したことを記述している。
 - (d) Dさんの視点を参考に、身近な生活とのつながりについて感じたことを記述している。
 - (e) Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

○ 成果					
水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程における振り返りを記述する問題					
自校		秋田県	87.5 (+8.1)	全国	79.4

◇設問ごとの顕著な例 [7(2)]

7 物質を体内に取り入れるための体の構造について探究しています。

図のように消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることで、体内に取り入れやすくなります。

図

(2) 加熱することで分解が起きるものを1つ選びなさい。

- 電熱線に電流を流して水を加熱する
- ガスバーナーで炭酸水素ナトリウムを加熱する
- ブドウ糖を含む溶液にベネジクト液を加えて加熱する
- マグマが地下水を加熱する

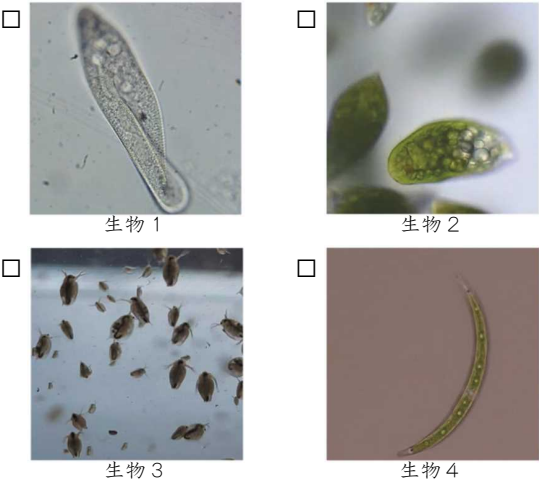
(正答)
ガスバーナーで炭酸水素ナトリウムを加熱する と解答しているもの

○ 成果					
消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する問題					
自校		秋田県	60.1 (+8.5)	全国	51.6

◇設問ごとの顕著な例 [1(4)]

1 地層からしみ出した水について調べる

(4) 呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでもかまいません。



▲ 課題					
生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題					
生命を維持する働きに関する知識を活用し、判断することに課題が見られました。					
自校		秋田県	23.6 (-6.1)	全国	29.7

☆改善に向けた取組のポイント

生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにするためには、観察した生物の共通点と生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることが大切です。例えば、生活するためのエネルギーが取り出され、二酸化炭素などが出されることについての知識を身に付けた後に、動く生物や動かない生物など、いろいろな生物に対して呼吸が行われているかどうかを考察する学習活動が考えられます。

解答類型		秋田県	全国
◎	生物1、生物2、生物3、生物1・生物2、生物1・生物3、生物2・生物3、生物1・生物2・生物3 と解答しているもの	65.0	58.9
	生物1・生物2・生物3・生物4 と解答しているもの	23.6	29.7

◇設問ごとの顕著な例 [8(2)]

8 博物館で学芸員より説明を受け、大地の変化について探究しています。(中略)

図2はボーリング地点①、②、④の結果です。
この結果から、**■**の地層は、
『**■**は地表の下に存在する
・同じ厚さである
・ボーリング地点②と④の間に断層が一つある』
と考えました。

Aさんの下線部の考えが正しいなら、ボーリング地点③の結果が予想できます。

ボーリング地点③の結果は、どのようになっているのかな。

【ボーリング調査の結果】

ボーリング地点① ボーリング地点② ボーリング地点④

図2 ボーリング調査の結果

■は、同じ種類の地層を示しています。

ボーリング地点③

(2) 下線部の考えが正しいと言うためには、ボーリング地点③のボーリングの結果がどのようになればよいか。**■**を必要な数だけ適切な位置に移動させ、最も適切なボーリング地点③の結果を示しなさい。

(正答の条件)
次の(a)と(b)を満たしているもの
(a) 西から東へ下がるように傾いている。
(b) 同じ厚さになっている。

解答類型		秋田県	全国
◎	(a)と(b)を満たしているもの	12.7	13.9
◎	地点①から地点②までより傾きが大きい (a)と(b)を満たしているもの	3.2	4.1
	(b)を満たしているが、(a)を満たしていないもの	74.7	68.7

▲ 課題					
Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す問題					
大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題が見られました。					
自校		秋田県	15.9 (-2.2)	全国	18.1

☆改善に向けた取組のポイント

大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、地層の広がりを検討して表現できるようにするためには、科学的な根拠を基にした学習活動を行うことが大切です。例えば、校舎建設時にボーリング調査が行われ、学校にボーリング試料が残されているのであれば、生徒の興味・関心を高めることができます。また、他の学校にも同じように試料が残されているのであれば、離れた地点での比較が可能となるため、地層の広がり方等を空間的な視点で捉えることができると考えられます。

中学校第3学年 理科 質問調査の結果から

◇理科の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(61)〕「理科の勉強は好きですか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	76.7 (+12.9)	全国	63.8
-----------------	----	--	-----	-----------------	----	------

〔生徒質問(68)〕「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	95.4 (+9.6)	全国	85.8
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(54)〕「調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度に、生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか」

○「週1回以上」と回答した学校の割合			秋田県	82.7 (+33.8)	全国	48.9
--------------------	--	--	-----	-----------------	----	------

〔生徒質問(64)〕「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	26.0 (+4.3)	全国	21.7
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

肯定的な回答をした生徒の割合は全国を上回っているものの、他の質問項目に比べて低い状況が見られました。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・平均IRTスコアとのクロス集計の結果から、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」と肯定的な回答をした生徒は、スコアに高い傾向が見られました。しかし、同質問項目で肯定的な回答をした生徒の割合は令和4年度調査の結果と比べると、マイナス0.2ポイントとやや減少しています。理科の授業で学習したことが日常生活でどのように活用されているかを伝えたり、民間企業等の専門性の高い方の講話を授業に組み込んだりするなど、生徒が、理科を学ぶ意義や社会にもたらす科学技術の価値を実感できるような場面を単元構想の段階で設定していくことが大切です。

質問調査

質問調査の結果には、本県の児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れています。特に、学習習慣、家庭学習や、家庭や地域との関わりに関する質問項目においては、児童生徒質問調査、学校質問調査ともに、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて10ポイント以上高い項目が見られ、学校の取組が児童生徒の良好な状況につながっていることがうかがえます。

一方、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していると回答した学校の割合が、全国平均を下回っています。

表の数値は、上段：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合の合計（％）

下段：肯定的な回答のうち「当てはまる」等と回答した割合（％）

グラフの縦軸の数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合の合計（％）

生活習慣、豊かな人間性等

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。		94.8 (85.7)	+ 1.1 (+ 2.4)	94.5 (84.3)	+ 3.3 (+ 5.6)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。		92.3 (58.7)	+ 1.3 (+ 3.1)	94.3 (60.8)	+ 1.7 (+ 6.1)
自分には、よいところがあると思いますか。		89.7 (52.0)	+ 2.8 (+ 4.7)	89.3 (43.9)	+ 3.1 (+ 3.2)
将来の夢や目標を持っていますか。		88.5 (67.8)	+ 5.4 (+ 7.1)	74.8 (41.4)	+ 7.3 (+ 5.9)
学校に行くのは楽しいと思いますか。		88.9 (51.5)	+ 2.4 (+ 1.6)	88.4 (50.0)	+ 2.3 (+ 4.4)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。		83.1 (36.9)	+ 5.0 (+ 4.3)	84.7 (36.8)	+ 5.5 (+ 5.4)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。		90.1 (47.8)	+ 8.8 (+14.0)	86.5 (36.1)	+11.2 (+13.7)

学習習慣、家庭学習

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(30分以上) 92.7	+11.3	(1時間以上) 68.9	+ 7.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(1時間以上) 72.9	+25.8	(2時間以上) 46.0	+13.5

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	100.0 (72.0)	+ 3.4 (+22.7)	98.0 (53.8)	+ 5.2 (+19.3)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。	96.4 (60.7)	+ 5.8 (+22.5)	100.0 (54.8)	+14.1 (+27.7)

主体的・対話的で深い学び

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。		70.4 (26.9)	+ 1.8 (+ 0.1)	63.4 (20.3)	+ 0.4 (+ 1.4)
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。		85.2 (34.6)	+ 4.9 (+ 5.6)	84.3 (29.1)	+ 6.6 (+ 5.7)
前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。		84.6 (35.0)	+ 6.8 (+ 6.3)	80.7 (28.1)	+10.1 (+ 7.9)
前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。		89.2 (42.7)	+ 5.8 (+ 8.3)	85.6 (29.7)	+ 6.3 (+ 7.6)
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。		89.5 (49.6)	+ 4.6 (+ 8.7)	89.7 (45.1)	+ 5.0 (+10.0)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		86.5 (40.2)	+ 7.1 (+ 9.0)	81.1 (30.6)	+ 7.7 (+ 7.6)
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。		95.2 (58.0)	+ 3.3 (+ 8.1)	94.2 (54.5)	+ 2.3 (+ 9.0)

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか。	94.1 (27.4)	+ 4.8 (+ 4.9)	87.5 (25.0)	- 0.7 (+ 4.0)
授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか。	80.9 (10.1)	+ 0.5 (- 3.8)	79.9 (21.2)	- 2.9 (+ 4.4)
授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか。	69.0 (9.5)	+ 4.9 (- 1.5)	51.9 (7.7)	- 4.7 (- 1.3)
前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。	88.1 (21.4)	- 2.9 (- 6.7)	87.5 (21.2)	- 0.3 (- 2.4)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.9 (14.9)	+ 1.3 (- 7.1)	88.5 (18.3)	+ 1.7 (- 1.8)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	93.5 (16.1)	+ 6.6 (- 3.6)	89.5 (13.5)	+ 9.2 (- 1.9)

家庭や地域との関わり

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。	(行っている)		(1日以上)	
(中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	59.5	+14.4	94.3	+14.5
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。	98.8 (45.8)	+ 5.5 (+ 5.6)	97.1 (31.7)	+ 8.1 (- 0.1)

ICTを活用した学習状況

ICT機器の活用頻度（ほぼ毎日）は全国平均を上回っており、また、ICT機器を使って文書作成や情報整理等を行うことに自信をもっている児童生徒が多いことがうかがえます。一方、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、日常的に家庭に持ち帰って活用させる取組をしていると回答した学校の割合は、全国平均を下回っています。

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		(ほぼ毎日(複数の授業)) 26.7	+ 2.2	(ほぼ毎日(複数の授業)) 31.3	+ 1.8
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか。 [新規]		84.1 (40.9)	+ 2.3 (+ 1.6)	87.9 (40.3)	+ 4.3 (+ 3.9)
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか。 [新規]		70.9 (27.6)	+ 1.6 (+ 0.7)	67.0 (22.2)	+ 3.7 (+ 1.1)

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(ほぼ毎日(複数の授業)) 55.4	— 5.6	(ほぼ毎日(複数の授業)) 67.3	+ 3.6
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 19.0	— 2.3	(ほぼ毎日) 26.0	+ 4.6
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 15.5	— 5.9	(ほぼ毎日) 23.1	+ 6.0
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	(毎日～時々) 80.4	— 8.6	(毎日～時々) 75.0	— 12.2

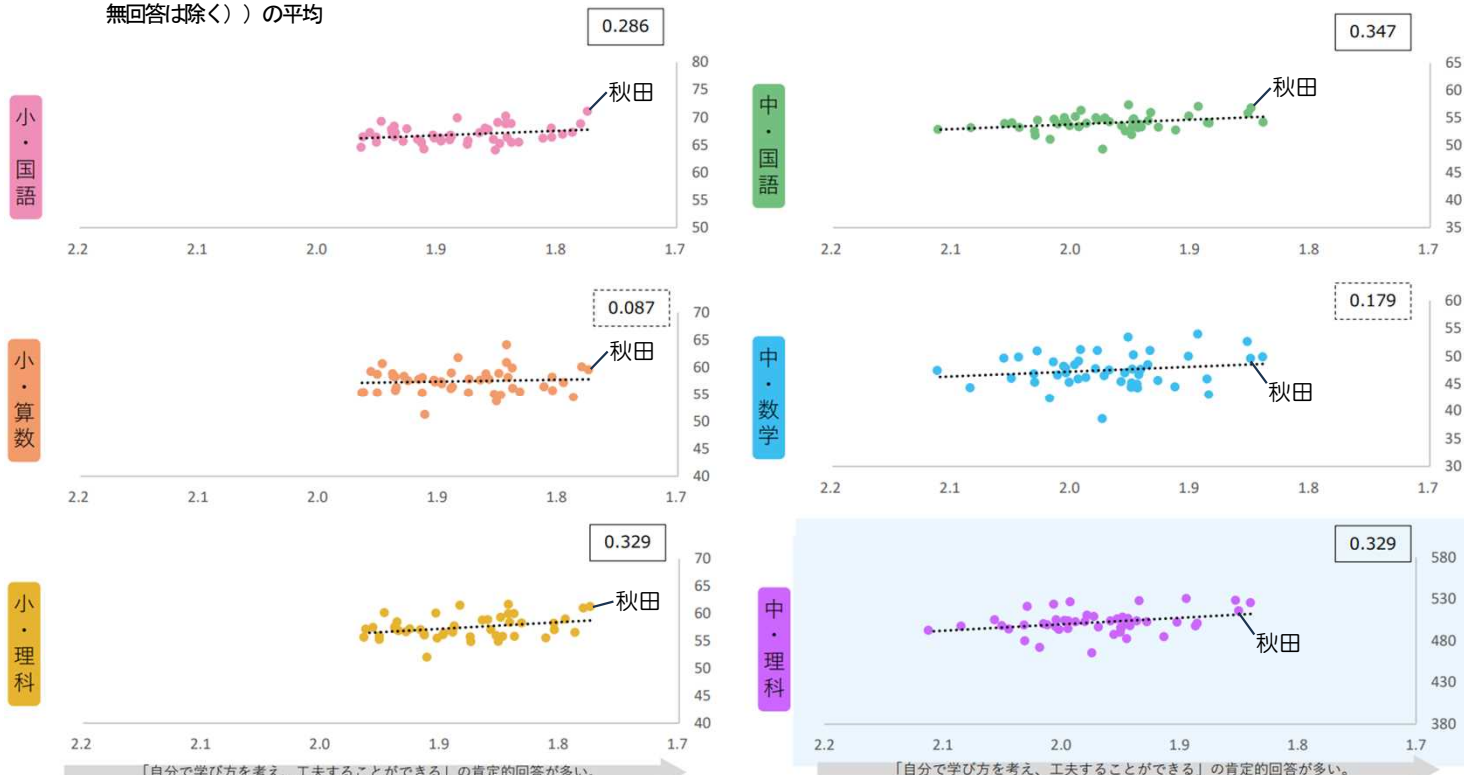
学力や質問調査の結果を示す散布図【都道府県（指定都市を含む）別結果から】

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 ※ 0.286 内の数字は相関係数 (0.2未満の場合は囲み線が破線)

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 できている 2 どちらかといえば、できている 3 どちらかといえば、できていない 4 できていない（その他、無回答は除く））の平均



学力や質問調査の結果を示す散布図【都道府県（指定都市を含む）別結果から】

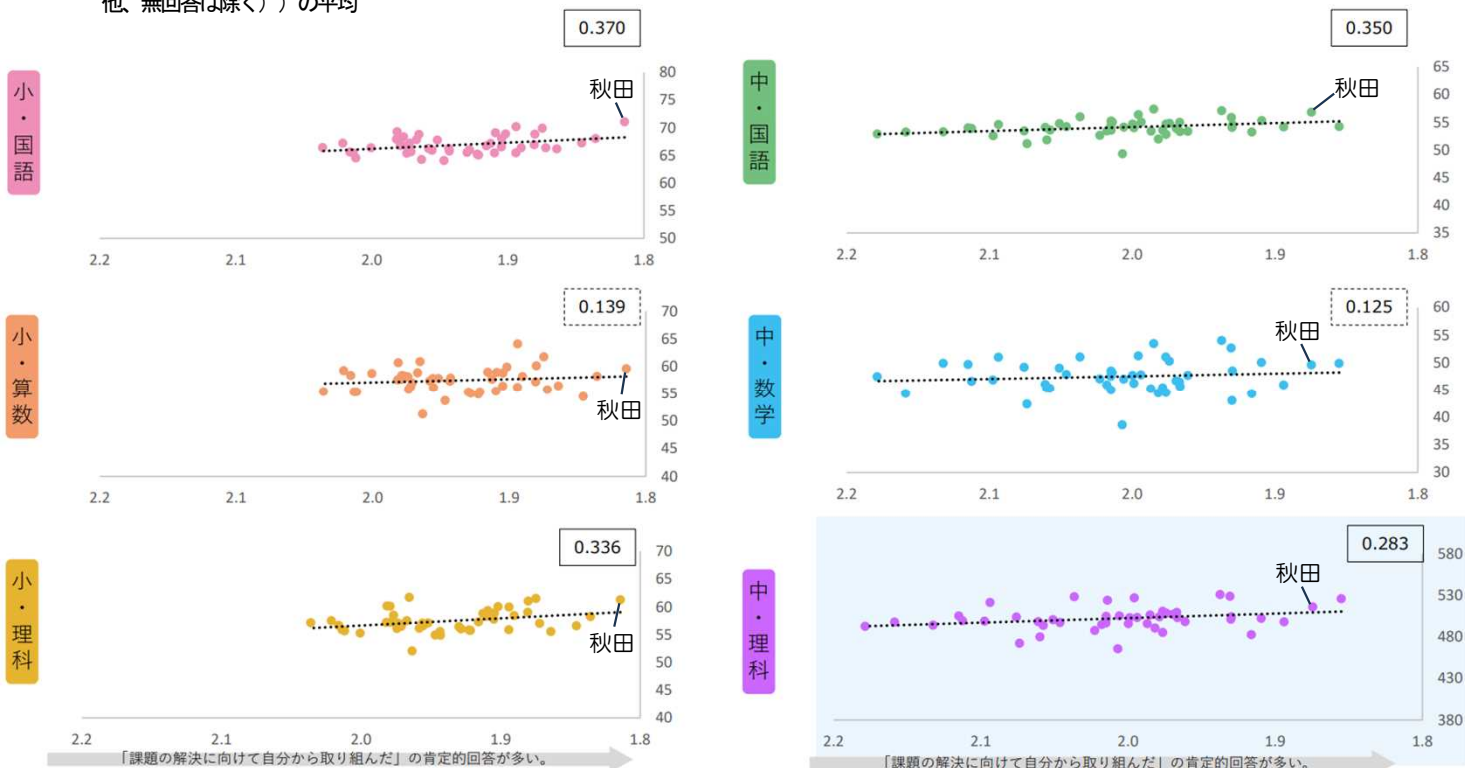
「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※ □ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない（その他、無回答は除く））の平均



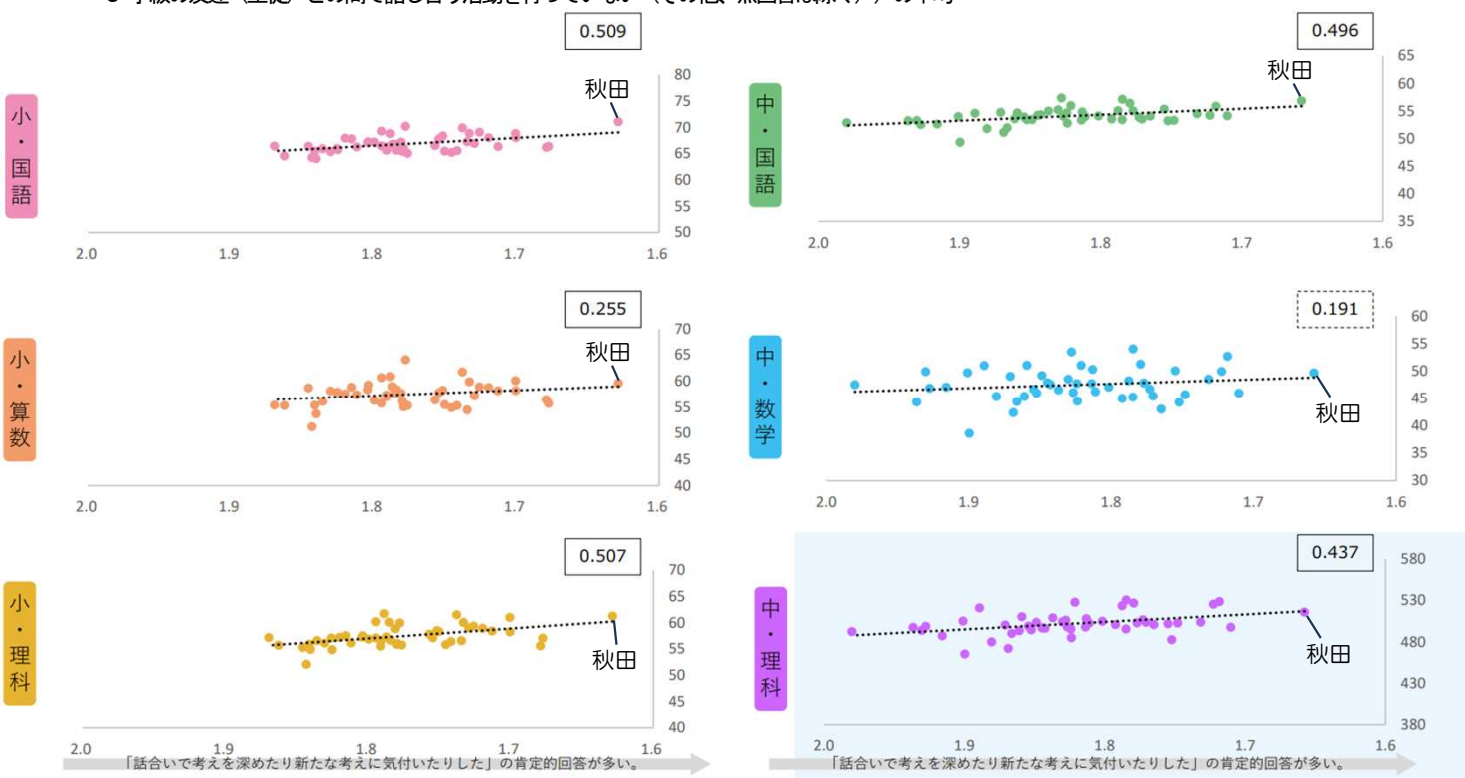
「話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

※ □ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない 5 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない（その他、無回答は除く））の平均



学力や質問調査の結果を示す散布図【都道府県（指定都市を含む）別結果から】

「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

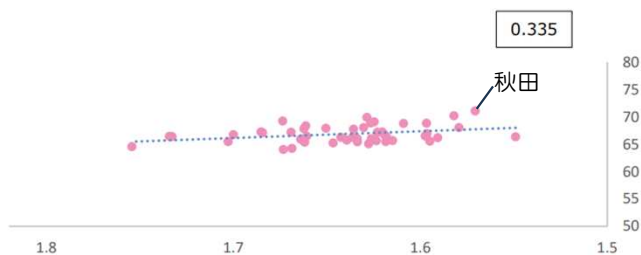
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができるといいますか。

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

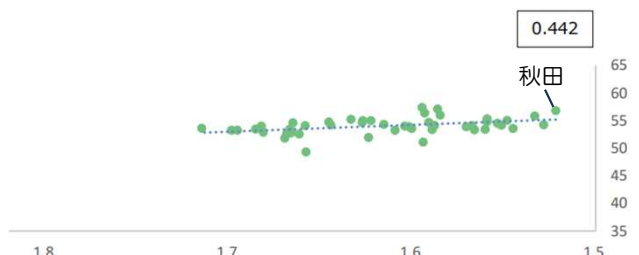
縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない（その他、無回答は除く））の平均

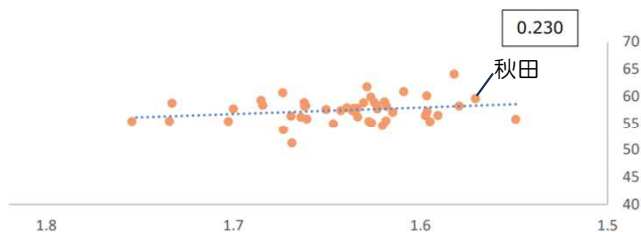
小・国語



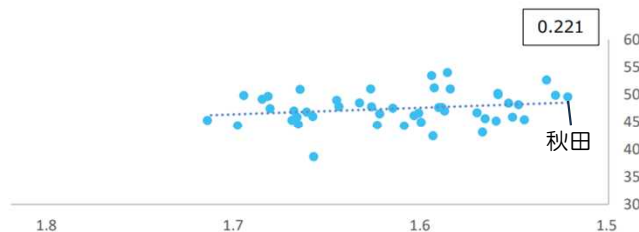
中・国語



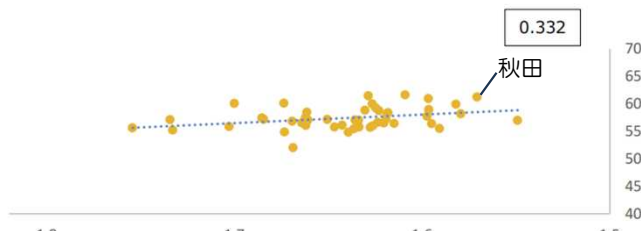
小・算数



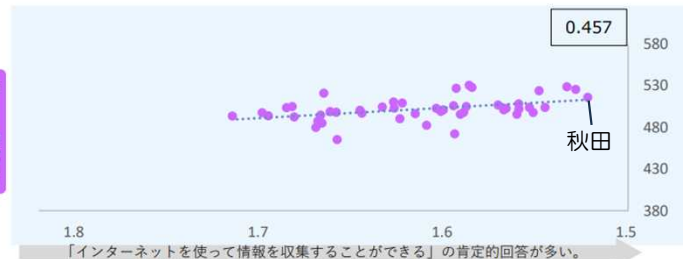
中・数学



小・理科



中・理科



「インターネットを使って情報を収集することができる」の肯定的回答が多い。

「インターネットを使って情報を収集することができる」の肯定的回答が多い。

「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

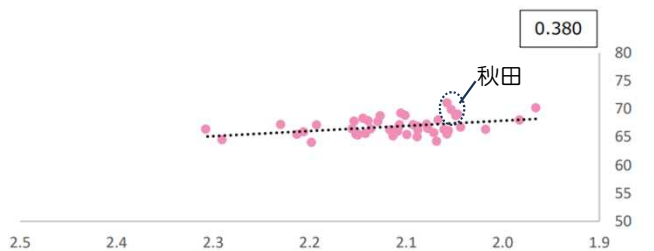
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができるといいますか。

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

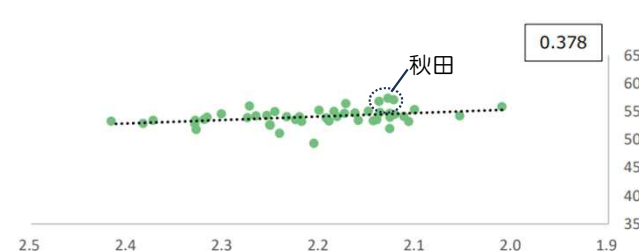
縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない（その他、無回答は除く））の平均

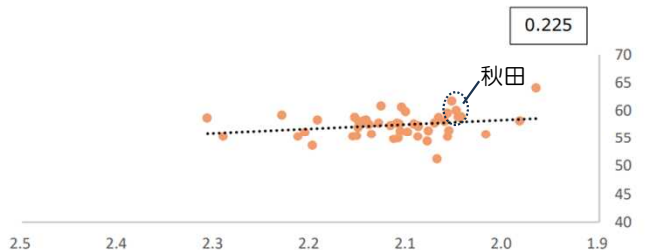
小・国語



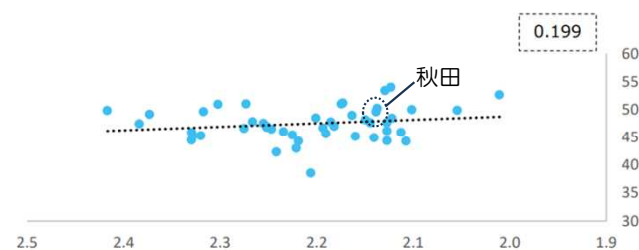
中・国語



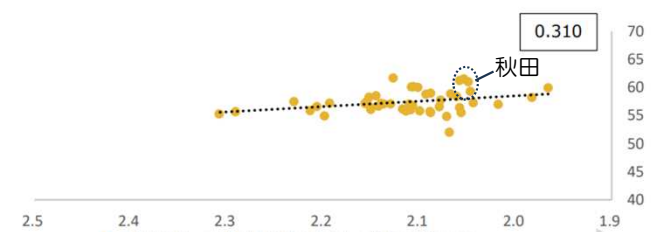
小・算数



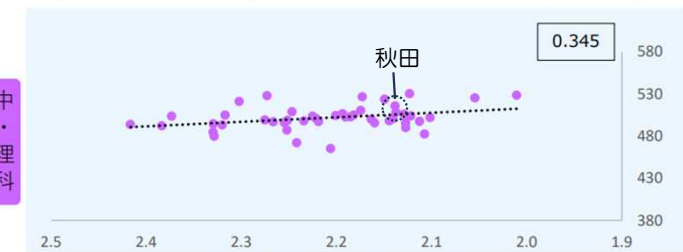
中・数学



小・理科



中・理科



「ICT機器を使って情報を整理できる」の肯定的回答が多い。

「ICT機器を使って情報を整理できる」の肯定的回答が多い。

学力や質問調査の結果を示す散布図【都道府県（指定都市を含む）別結果から】

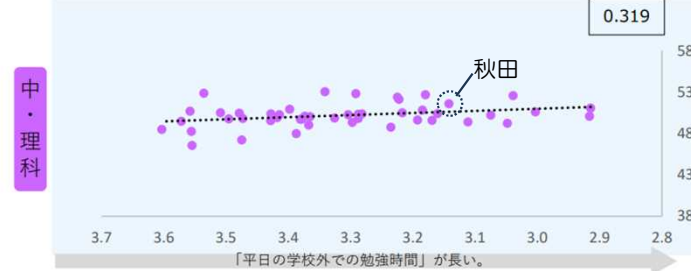
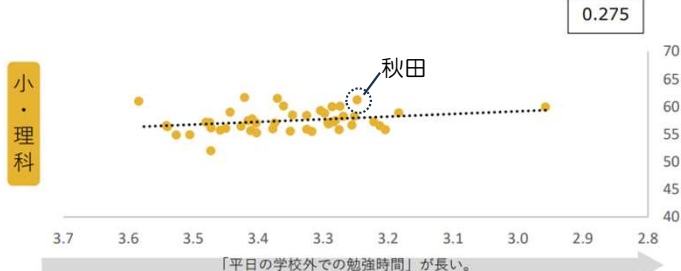
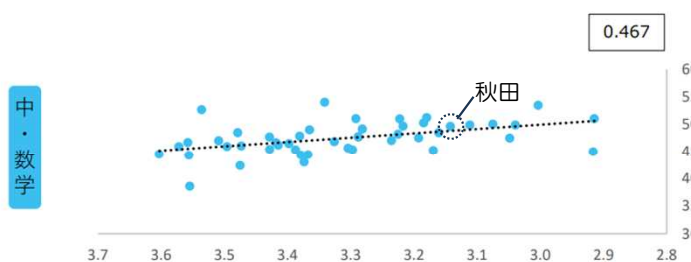
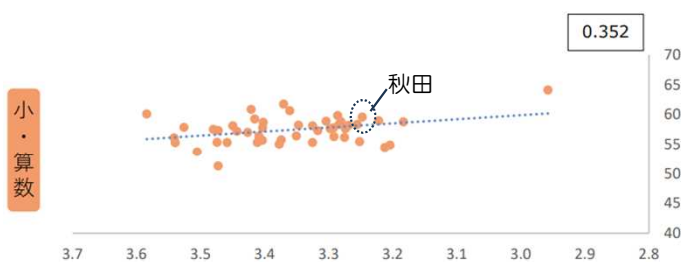
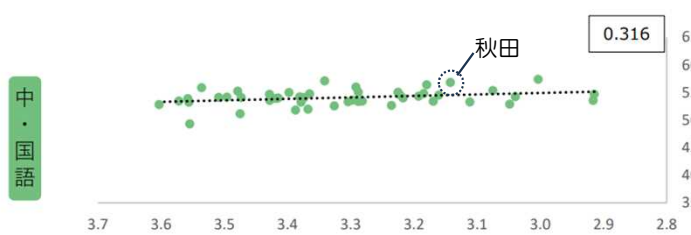
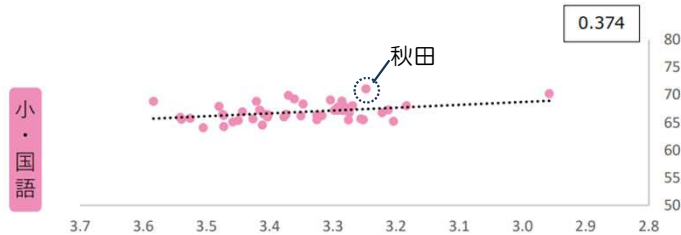
「平日の学校外での1日当たりの勉強時間」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない（その他、無回答を除く））の平均



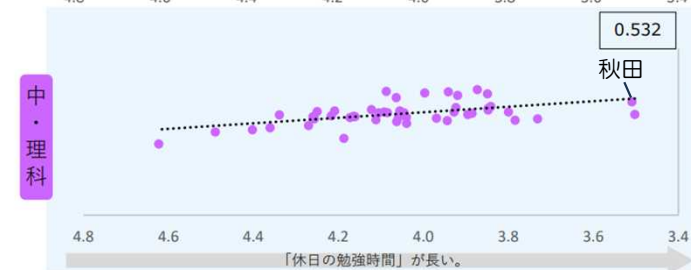
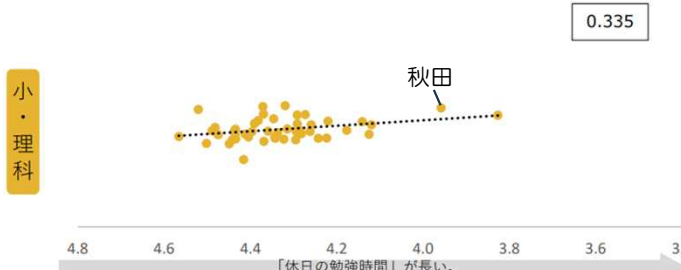
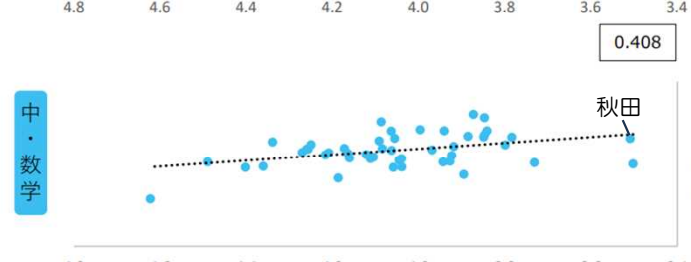
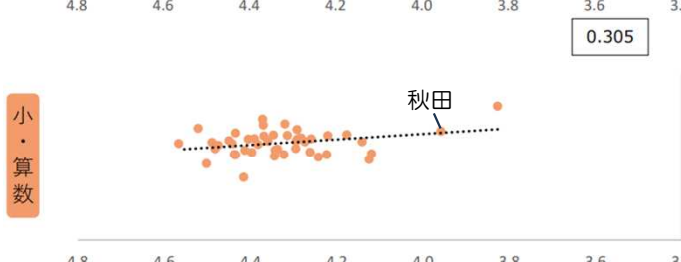
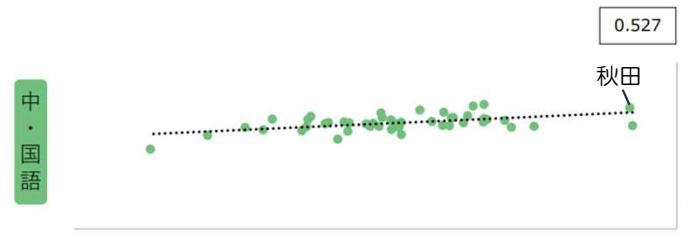
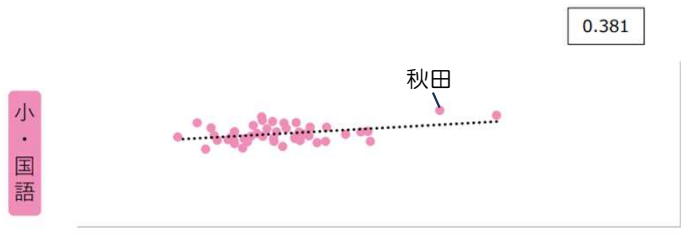
「休日の1日当たりの勉強時間」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られます。

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は囲み線が破線)

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない（その他、無回答を除く））の平均



一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を基に、「安定した成果を示している学校」「課題の改善状況が顕著である学校」がもつ特長から、学力向上を支える関連因子を見付け、それらを「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～」としてまとめてきました。各学校においては、この「5つのエッセンス」を、児童生徒の一層の学力向上に活用していただければ幸いです。

1 学校体制でPDCAサイクルを生かした共同研究

学校質問調査では「全国調査の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」などが全国の結果を上回っており、本県が提唱する全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査、高校入試を一体と捉えた検証改善システムの充実が進んでいます。

2 子どもたちが安心して学習できる環境づくり

児童生徒質問調査では「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」などが全国の結果を上回っています。これは子どもたちが前向きで真摯な姿勢であることはもちろんですが、児童生徒のよさや可能性を積極的に評価して、自己有用感をもたせようと工夫を凝らしている本県の教師・学校のきめ細かく温かな学習環境づくりが生み出した結果です。

3 子どもたちの思考を促し深める探究型の授業づくり

本県では、児童生徒が問題を発見し話し合うなど、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決する探究型授業が盛んです。児童生徒質問調査では「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」などが全国の結果を上回っています。今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、ICTを適切な場面で効果的に活用しながら授業改善を進め、児童生徒一人一人の学びの質を高めることが一層求められます。

4 自発的な学習を生み出すきめ細かな指導

子どもたちに確実に資質・能力を身に付けさせるためには、児童生徒の実態を踏まえ、自発的な学習を促す指導の工夫が大切です。学校質問調査では「家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている」「家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている」などが全国の結果を上回っています。今後更なる学力向上を期して、家庭学習の充実に向けた指導、補充的な学習や発展的な学習、自ら「問い」をもつことができる子どもの育成に向けた指導などに、全校体制で組織的・継続的に取り組むことが求められます。

5 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

学校・家庭・地域等のオール秋田でつくってきたすばらしい教育環境が、本県の教育の強みです。子どもたちの授業に向かう姿勢、家庭学習の充実なども、それと関わりがあります。本県では、学校から家庭や地域への働き掛け・呼び掛けが特に丁寧に行われており、学校・家庭・地域の豊かな連携を生み出しています。

令和7年度秋田県検証改善委員会

全国学力・学習状況調査等の活用に係る委員一覧

※敬称略 職名は令和7年10月現在

成 田 雅 樹	秋田大学大学院教育学研究科教授	高 橋 毅	北教育事務所山本出張所指導主事
佐々木 雅 子	秋田大学教育文化学部教授	中 野 綾 子	中央教育事務所由利出張所指導主事
加 藤 慎 一	秋田大学教育文化学部講師	栗 津 明 子	南教育事務所仙北出張所指導主事
原 田 勇 希	秋田大学教育文化学部講師	佐 藤 和歌子	南教育事務所雄勝出張所指導主事
伊 藤 悟	義務教育課長	村 上 丈 二	義務教育課指導主事
真 崎 敦 史	義務教育課チームリーダー	佐 藤 整	義務教育課指導主事
佐々木 修 一	義務教育課副主幹	藤 原 正 貴	義務教育課指導主事
飯 塚 和 人	北教育事務所指導主事	矢 吹 敦	義務教育課指導主事
須 合 真紀子	北教育事務所鹿角出張所指導主事	吉 田 茂 樹	義務教育課指導主事